



竹林、タケ、タケノコについて

Q

Question

竹林と藪とは違いますか？

A

一般には、藪は手入れがされていなく、タケが密生状態になっているものをいい、竹林は間伐・整備されているものをいっているようです。

けれども当地では、きれいに整備されたタケノコ畑としての竹林を藪と言いならわしています。

なお、漢字では「藪」が正しく、タケカンムリの「藪」の本来の意味は①洗米用の竹器、②コメ16斗でした。ところが、ヤブというとタケヤブがイメージされ、「藪」という漢字を誤用ながら、使うようになりました。

ついでに言うと、バンブーとタケとは違う種類のものです。バンブーは熱帯地で株立ちしているもので、タケは1本1本が個々に立っているものです。英語で日本酒のことをワインといわずサケというように、やがて日本の竹はバンブーといわずタケというようになるでしょう。

Answer

Q

Question

竹林の土中はどうなっていますか？

A

竹林の土中は地下茎が縦横に広がり、地下ではつながっています。

タケノコは地下茎の節(ふし)から芽となって成長し、やがてタケになります。タケになるとまた自分の地下茎を伸ばしていきます。竹林ではこれが繰り返されているので、たくさんの地下茎は一本のものとしてつながっています。

タケの群落はひとつながりの地下茎によって形成されているわけで、この群落のタケはクローンであるわけです。

Answer

Q

Question

春にタケノコがでて、それが終わると落葉しますね。タケはなぜ春に枯れ葉になるのでしょうか？

A

確かに、タケはタケノコを育ておわると、まるで力が尽きたように葉が黄色くなって散ります。これを俳句では「竹の秋」と呼んでいますね。落葉の時期は春か秋か、植物によって違うようで、その理由づけもいろいろあります。

タケは2年に1回落葉するという説があります。竹の学校の竹林は全てのタケにタケノコとしてできた年号が記してあります。それをみていると、2010年の春に落葉したタケは2004年、2006年、2008年のタケノコが成長したものでした。

その研究も充分ではありません。土壌とタケと空気の間にかかる窒素循環が関係しているのかも知れません。また、タケノコの豊作(オモチ)・不作(ウラ)は隔年であるともいわれますが、何か関係があるのかも知れません。

Answer



竹の学校の竹林は全てのタケにタケノコが地上に出た年を記入している。